

8月8日

司祭修道士ドミニコ

Domingo de Guzman Garces

(1170頃～1221)

～修道会ドミニコ会の創立者～

<人名事典などでの別表記：ドミニクス>

ドミニコはスペイン出身の司祭で、修道会ドミニコ会の創立者として知られています。彼はスペインで生まれ、パレンシアの大聖堂付属学校で神学や哲学を学んでいきます。

その後、オスマの大聖堂で、参事会員として働いていました。あるとき、ドミニコは司教とともにデンマークに行きましたが、その途中で通った南フランスで、アルビ派の人々と出会います。当時アルビ派は異端とされており、ドミニコはキリスト教信仰から外れている彼らを見て心を痛み、彼らに対する宣教こそが自分の使命であると考えます。しかし、彼がいくら宣教しようとしても、ことごとく失敗に終わってしまいました。

そこでドミニコはこのように考えました。「立派な服を着、立派な馬に乗っていて、どうして人々をキリストのもとに導くことができようか」と。

それから彼は、ルカ福音書9章1～6節を実行します。「貧しいキリストの使徒」として粗末な服を着、裸足で何も持たずに、托鉢をしながら各地で説教を行い、仲間を集めていきました。そしてアルビ派の人たちに説教を繰り返していきました。



彼の周りにはいつしか彼の行動に賛同する人が集まって来ました。しかしその当時の一般の司祭の教育レベルは低かったために、ドミニコは説教の質を上げようと、「説教訓練所」を設立します。そしてこの集団は *Orad Praedicatorium* (説教者修道会) となります。ドミニコは説教を通して、全世界に福音を伝えることこそが自らの使命だと感じていました。当時の教皇は新しい修道会の設立を禁止していましたが、夢の中で教皇のいる大聖堂を二人の人物、ドミニコとアッシジのフランシスコが支えているのを見て、ドミニコの修道会を認めたといえます。

ドミニコ会はイタリア・スペイン・フランスなどで有力な修道会です。そしてアルベルトゥス・マグヌスやトマス・アキナスなど多数の人物を輩出してきました。またドミニコはロザリオの祈りの創始者とも言われています。

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やした司祭修道士ドミニコは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン